

2013 年 6 月 10 日 全 6 頁

改善続くも強弱入り混じる内容

2013 年 5 月の雇用統計：失業率は 0.1%ポイント上昇

ニューヨークリサーチセンター
エコノミスト 笠原 滝平

[要約]

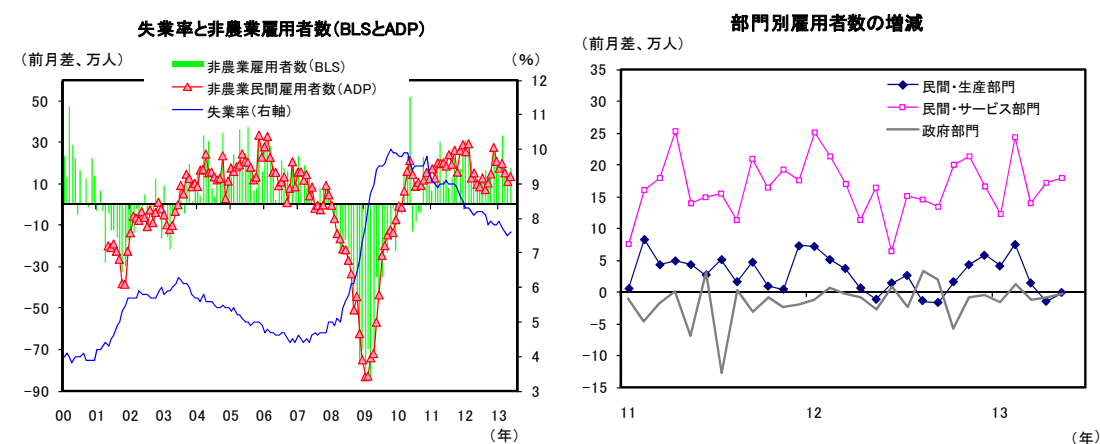
- 2013 年 5 月の非農業雇用者数は前月差 17.5 万人増と、4 月から増加幅が拡大した。業種分類別にみると、政府部門は歳出の強制削減などによって引き続き減少、民間・生産部門では製造業に先行きの不透明感が高まる内容であった。一方で、民間・サービス部門は引き続き増加した。
- 失業率は 7.6%と 4 月から 0.1%ポイント上昇したが、要因は労働参加率の上昇とみられる。また、失業者数が増加したものの、労働市場が活性化し始めた可能性が指摘できる。
- 雇用環境は緩やかな改善が続くものの、賃金の抑制や労働参加率の上昇など強弱が入り混じる様相を呈している。製造業など海外要因による不透明感の高まりがあるが、堅調な個人消費など国内要因によって雇用環境は緩やかな改善が続くと見込む。

雇用者数は引き続き増加

2013 年 5 月の非農業雇用者数は前月差 17.5 万人増と、4 月から増加幅が拡大、市場予想 (Bloomberg 調査：中央値 16.3 万人増) を上回った (図表 1・左)。過去分は、3 月が 13.8 万人増から 14.2 万人増、4 月が 16.5 万人増から 14.9 万人増へと修正されており、合計では 1.2 万人の下方修正であった。

5 月の内容を見ると、政府部門では歳出の強制削減などにより連邦政府が引き続き減少した。一方で、州・地方政府は歳入の増加などから雇用の減少に歯止めがかかっているとみられる。民間・生産部門では、住宅市場の改善に伴い建設業で雇用者数が増加、また買い替え需要などによって製造業のうち自動車関連でも雇用の増加が見られた。しかし、製造業の幅広い業種で雇用者数が減少しており、全体では 3 ヶ月連続でマイナスとなった。ISM 製造業指数が 3 ヶ月連続で低下したことや、欧州や中国など海外経済の成長鈍化など、製造業を取り巻く環境は不透明感が高まっている。一方で、足下の雇用改善のドライバーである民間・サービス部門は、専門・企業向けサービスや小売などの雇用者数増加によって引き続き改善している。製造業など一部に不透明感が高まっているものの、全体の雇用者数は増加しており、悪い内容ではない。

図表 1 雇用者数増減の概要



(出所) BLS, ADP, Haver Analytics より大和総研作成

サービス業の改善が全体を牽引

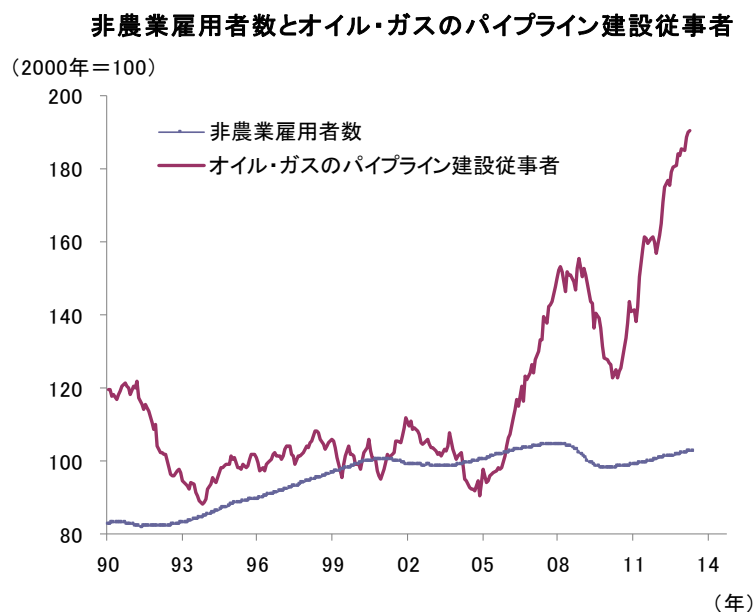
業種別の非農業雇用者の推移を見ると、政府部門は 0.3 万人減と減少が続いたものの 4 月からマイナス幅が縮小した。連邦政府は歳出の強制削減などの影響によって 3 月から 1 万人を上回るマイナス幅が続いているが、州・地方政府は足下にかけて改善の兆しがみられる。特に、地方政府は 3 ヶ月連続で増加しており、増加幅も拡大している。歳入の増加が寄与している可能性がある。連邦政府の雇用者数は引き続き政府部門の足を引っ張る可能性が高いが、政府部門の雇用者数の大部分を占める州・地方政府の増加ペースによっては、雇用全体への下押し圧力が緩和されるだろう。

民間部門の雇用者数は前月差 17.8 万人増と 4 月から増加幅が拡大し、緩やかな改善が続いた。民間部門を牽引したのは同 17.9 万人増となったサービス部門であった。サービス部門の中身を見ると、情報関連が増加に転じたほか、小売などで増加幅が拡大した。小売では、デパートを含む一般小売の雇用者数が引き続き増加し、家電量販店や衣料品店などでは雇用者数が増加に転じた。年明けから始まった給与税減税の廃止などの財政問題によって個人消費の冷え込みが危惧されたが、雇用統計を見る限り、5 月も堅調な可能性がある。旺盛な個人消費は小売などの雇用を支えているかもしれない。また、企業・専門サービスが人材派遣の増加などにより同 5.7 万人増と引き続き増加した。

一方で、サービス部門とは対照的に、生産部門は製造業での雇用減少によって同 0.1 万人減と 2 ヶ月連続で減少した。鉱業は 4 月から横ばい、建設業は増加に転じたが、製造業は非耐久財の製造を中心に幅広い業種で減少し、3 ヶ月連続の減少となった。自動車関連は住宅市場の改善に伴う買い替え需要などによって販売・生産が堅調なため、雇用者数が増加したとみられる。

また、単月だけの動きではないが、細かくみれば、雇用者数全体を上回るペースで増加している業種もある。たとえば、4 月までのデータで、オイルやガスのパイプライン建設の従事者の推移を確認すると、シェールオイル・ガスの採掘が本格化し始めた 2005 年ごろから急増し、足下も堅調に推移している（図表 2）。非農業雇用者数の推移と比べると、その堅調さが際立つ。そもそもパイプライン建設の従事者の雇用者数が少ないため、雇用全体へ与える影響は限定的だが、緩やかな雇用改善の環境下でも、業種によっては改善ペースが速いところもある。

図表 2 一部に全体を上回る成長を遂げる業種も

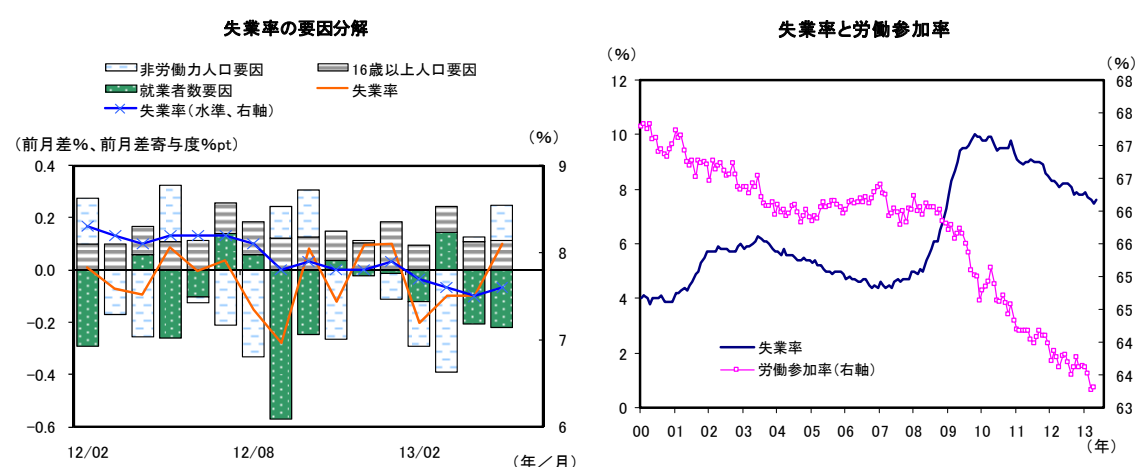


(出所) BLS, Haver Analytics より大和総研作成

失業率は上昇したものの、背景は好転？

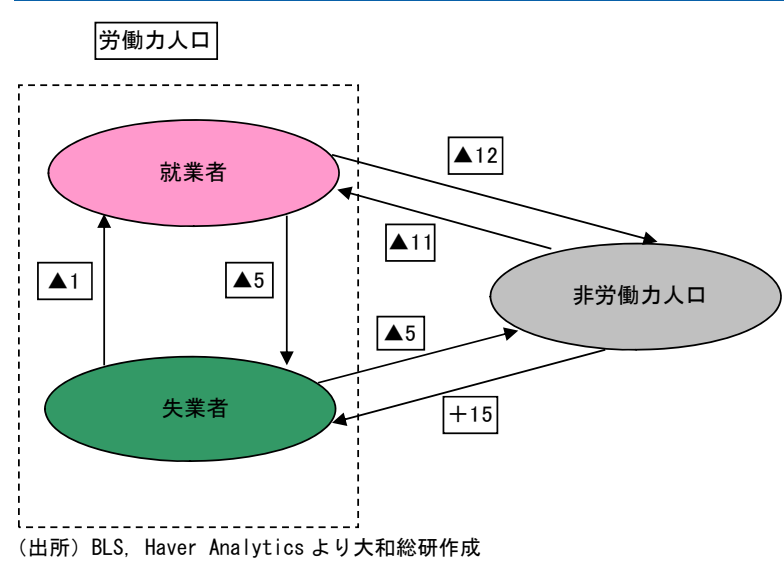
5月の失業率は前月から0.1%ポイント上昇し、7.6%になった（図表3・左）。就業者数が増加したものの、失業者数が増加したことや、就職を諦めた者（非労働力人口）が減少したため失業率は上昇した。失業率は上昇したが、その要因が就職を諦めた者の減少による労働参加率の上昇などであったため、必ずしも悲観すべき内容ではない（図表3・右）。ここ数ヵ月は非労働力人口の増加が続いていたため、失業率の低下を割り引いてみる必要があったが、5月は労働参加率の上昇によって、前向きに評価できるだろう。

図表3 家計調査の概要



就業者、失業者、非労働力人口の3つのカテゴリー間の移動を確認すると、就業者、失業者から非労働力化する者が減少し、労働力化して失業者となる者が増加した（図表4）。失業率は、労働参加率の低下によっても低下する。ただし、労働参加率の低下は必ずしも雇用環境の改善を意味しない。高齢化など構造的要因もあるが、失業した者が職探しをしない、働いていない者が新たに職探しをしないなど後ろ向きの要因によって労働参加率は低下する。これまでは労働参加率の低下を伴う失業率の低下であったが、5月は失業率が上昇したものの、労働参加率の上昇が見られた。今後、短期的には労働市場の改善によって労働参加率が上昇し、失業率の低下が起こりにくい状況が続く可能性がある。ただし、これは労働市場の本格改善の兆しであり、他の指標との関連もあるが、前向きに評価できるかもしれない。

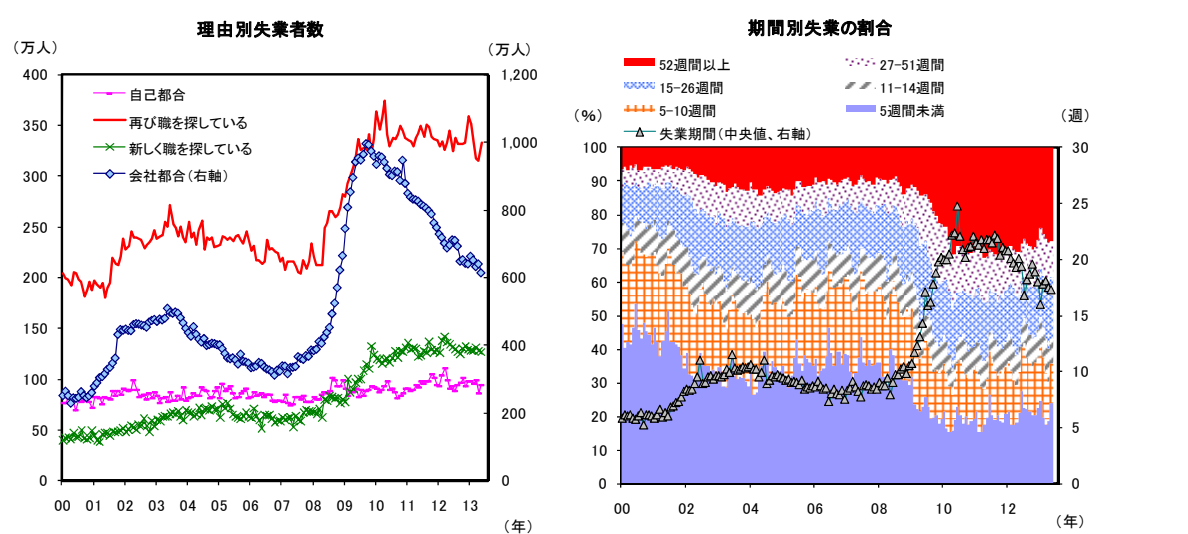
図表 4 就業者・失業者・非労働力人口の移動 (5月、万人)



前述のように、失業者数は増えたが、労働参加率の上昇を伴っており、必ずしも悪い内容ではないとみられる。失業者を理由別にわけてみると、自己都合の失業者や再び職探しを始めた者などが増加した一方で、会社都合による失業者が減少した。より良い職を求めた自己都合や、再び働きだそうと職探しを始めた者などは労働市場の改善に伴う失業者増の可能性もある。さらに、解雇などネガティブな理由の失業者数の減少も労働市場の質的改善が示唆される。

また、期間別の失業者数に目を転じると、5週間未満の短期失業者の割合が上昇、5週間以上の失業者の割合が総じて低下している。依然として長期の失業者の割合が高いものの、職探しを始めた者の増加とあわせて、労働市場の活性化の兆しととらえることができるかもしれない。

図表 5 労働市場の活性化の兆し



(出所) BLS, Haver Analytics より大和総研作成

雇用環境は強弱入り混じる内容

5月の雇用統計は、雇用環境の緩やかな改善が続いていることを示す内容であった。事業所調査では、非農業雇用者数の増加幅が前月から拡大し、市場予想を上回った。また、家計調査では、失業率が上昇したものの、労働参加率も上昇しており、失業率上昇の要因は労働力人口の増加であったとみられる。失業者は増加したが、失業理由別や期間別に見た場合には、労働市場の質的改善が示唆される内容であった。

依然として失業率は高く、雇用者数の増加ペースも緩やかなままであり、4月分の雇用統計のレポート¹で指摘した、労働時間や賃金の抑制など懸念事項は払拭されていない。一方で、5月分は上述のように労働市場の質的改善が示唆される部分もみられた。雇用環境は強弱入り混じる様相を呈している。雇用環境の方向性を決めるには時期尚早であるものの、悲観する必要はないのではないか。政府部門の雇用者数は歳出の強制削減が始まるときの想定より幾分控えめな減少にとどまっている。民間部門の雇用者数は、海外経済の成長鈍化懸念により製造業の雇用者数に不透明感が高まっているが、サービス業などその他の雇用者数は堅調な個人消費などに支えられて改善ペースが維持されている。筆者は労働市場の緩やかな改善を見込んでおり、職探しを始める者の増加（労働参加率の上昇）によって一時的に失業率は下がりにくなる可能性があるが、年後半にかけて緩やかに失業率が低下することを想定している。

¹ 大和総研ニューヨークリサーチセンター 笠原 滝平「改善する雇用統計に力強さはない」（2013年5月7日）参照。http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20130507_007128.html